

春まき品種 生産広がる

作付けが増える大分県豊後高田市の「春のいぶき」

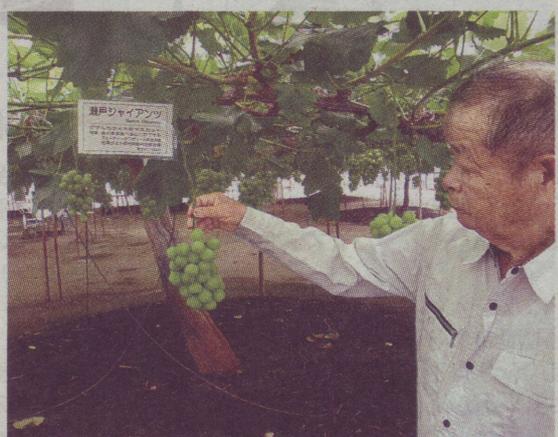


岡山生まれの高級ブドウ「瀬戸ジャイアンツ」はネット通販で1房4千円から1万円近い値がつく。生みの親は花沢ぶどう研究所(岡山市)代表の花沢茂さん。多様化する消費者ニーズに対応し、高級感や食べやすさを重視。地道な生産改善を積み重ね、岡山の風土に適した新品種を生み出すことに成功した。

食材 最新鮮

岡山生まれの高級ブドウ「瀬戸ジャイアンツ」はネット通販で1房4千円から1万円近い値がつく。生みの親は花沢ぶどう研究所(岡山市)代表の花沢茂さん。多様化する消費者ニーズに対応し、高級感や食べやすさを重視。地道な生産改善を積み重ね、岡山の風土に適した新品種を生み出すことに成功した。

開発物語



花沢ぶどう研究所には海外からも生産者らが視察に訪れる(岡山市)

岡山県のブドウ 「瀬戸ジャイアンツ」

花沢さんが同品種の開発に着手したのはおよそ40年前。農業高校の教師としてブドウ農家を育成する間、地元岡山のブドウ生産に危機感を覚えたのがきっかけだった。岡山は明治時代以来、全国トップクラスのブドウ生産県だった。だが種なしのデラウエア、大粒の巨峰といった品種が1960年代から安定的に

育てやすさと高級感両立

ソバは成熟期に雨が降ると穂が発芽して商品にならないことが多く、春に種をまくのはリスクが大きかった。だが九州沖縄農業研究センター(熊本県合志市)が青森県の在来種から選抜した新品種「春のいぶき」が産地

が期待した結果が出ず、品種の掛け合わせに踏み切った。試行錯誤の末、岡山での栽培実績があったマスカットをベースに欧州系のグザルカラを掛け合わせ、瀬戸ジャイアンツを開発した。現在までに同品種を含めて7品種を登録した。

主な業務用食材の価格と予想

(先週金曜時点・円、矢印は今週の予想)

〈コメ〉(卸間、玄米、1等、60kg、2010年産)	
コシヒカリ(新潟、一般)	24000 →
あきたこまち(秋田)	17250 →
きらら397(北海道)	13050 →
〈生鮮野菜〉(大田市場、相対、税込み、1kg、高値)	
キャベツ(群馬産、10kg)	1260 ↘
レタス(長野産、10玉)	1890 →
大根(北海道産、10kg)	1470 →
トマト(青森産、4kg)	2100 →
タマネギ(佐賀産、20kg)	1890 →

〈食肉〉(1kg)	
国産牛枝肉(和牛去勢A4、芝浦市場、加重平均価格)	1461 →
〃(和牛去勢A5、同)	1796 →
〃(交雑種去勢B3、同)	875 →
国産豚枝肉(生体・上物、同)	521 →
国産プロイラー	
(もも肉、東京荷受け8社売値、同)	607 →
鶏卵(荷受け、全農たまごM、同)	165 →
輸入牛肉	
(米国産ショートプレート、冷凍、同)	480-490 →
(豪州産チルドビーフフルセット、冷蔵、同)	660-670 →
輸入プロイラー	
(ブラジル産もも肉、荷受け卸値、冷凍)	380-390 →
〈水産物〉(築地市場、税込み、高値、1kg)	

量は予定の3分の1程度に激減した。それでも輪作で効率的にとどまる。県も生産